

語り継ぐ 芦屋のまちと暮らし

問い合わせ 国際文化推進課 ☎38-2115

三世代で語る「昭和・平成・令和」

1926年に「昭和」という時代が幕を明けてから、今年でちょうど「昭和100年」。芦屋市民の皆さんにとって、昭和はどんな思い出として残っているのでしょうか。今回は、三世代にわたり芦屋市で暮らす和田法子さん・山下祥子さん・梓ちゃん・紬ちゃんのご一家にお話を伺いました。梓ちゃん・紬ちゃんに特別広報員をお願いして、おばあちゃんとお母さんに昔の暮らしや思い出を聞いてもらいました。

昭和ってどんな時代？



ばあば、昭和ってどんな時代だったの？

梓ちゃん

祖母：今より不便なことも多かったけど、ご近所づきあいがすごく温かかったのよ。地域の人たちと協力してお祭りをしたり、公園で遊んだり、みんなでよく集まったものよ。

紬ちゃん：どんな遊びをしていたの？

祖母：お人形遊びやブランコ、缶蹴りなんかもね。

梓ちゃん：わたしもブランコ好き！缶蹴りもやるよ！

母：ママのこどものころは、遊んでる子がいたら知らない子も自然とまざって一緒に遊んでたの。今は「知らない人に近づかない」って言われるから、ちょっと違うよね。

梓ちゃん：ママの思い出も教えて！

母：そういえば、小さい頃に驚いたことがあるの。駄菓子屋さんで



友達がゲームしてるのを見てただけなのに、ご近所さんから「ママがゲームをやってた」って伝わってしまってたね。家に帰ったら、もう大きいばあば（曾祖母）が知っていて怒られたの。スマホもない時代なのに帰るまでの短い時間には家に届いていて、ご近所の目がある時代だったなあって（笑）。

祖母：昔はこどもがたくさんいて、夏祭りや地蔵盆もにぎやかだったの。ママの誕生日がお祭りの日と重なって「お祝いだね」ってよく一緒に出かけたのよ。

母：お揃いの浴衣で盆踊りを練習してた人もいたよね。当日はこどもたちも一緒に輪に入って、大きな輪になってたなあ。

祖母：今は見かけないけれど、きっと違う形で人が集まってるのかもしれないわね。



今はネットでつながれる便利さがあるけど、昭和の温かいご近所のつながりも素敵だったな。

祥子さん(母)



皆さんのご家庭でも、この特別な機会にご家族で、大切な思い出を語りあってみてはいかがでしょうか



ばあばは若いし
ママはこどもだー

ここはどこ？



わたしの好きな場所



ばあばとママの一番好きな芦屋の場所は？

紬ちゃん

祖母：私は松浜公園ね。こどものころから変わらない川や松林を見ると、心がホッとするのよ。

母：ママも小さい頃よく行ったなあ。もう海はなかったけど、名残であった海の家で肉まんを食べたのを思い出すわ。

祖母：そういえば、じいじが昔、巨人の選手が松浜の海岸をランニングしていたのを見て巨人ファンになったんだって言っていたのよ。そういうことも含めていろいろと思い出のある風景なの。

母：涼風町に家がまだ建っていないのに見たサマーカーニバルの花火も大好き！

紬ちゃん：私は習い事の途中で通る宮川の橋からの景色！あと、こども園のあじさいも好き！

芦屋は小さいけど落ち着ける場所が多いわね。家族で大好きなまちについて色々語り合えるのはうれしいことよね。



法子さん(祖母)

家族の思い出



家族の思い出ってなにがある？

紬ちゃん



祖母：行事ごとは家族で大事にしてきたわね。こどもの日の菖蒲湯や、お正月のおせち作りとか。

母：12月30日の午前0時から家族で大きいばあばのお家に集まって、お菓子をつまんでわいわいしながらおせちを作ったの、楽しかったなあ。

梓ちゃん：いいなあ！私もやってみたい！

祖母：今は作らなくなったけど、大みそかに買い出しに行つて、みんなでお茶するのが恒例。それは続けたいわね。



昭和から受け継ぎたいもの



ばあばとママが芦屋の未来に残したいものってなあに？

梓ちゃん



祖母：長い時間をかけて守られてきた芦屋の景色や文化ね。このまちで自分らしく生きられる環境を、これからも大事にしてほしいわ。

こどもやお友達のことを思いやって、お互いに支え合う温かさかな。そしてこの恵まれた芦屋で、あなたたちが好きなことや、やりたいことを見つけて育ってくれたらうれしいわ。



祥子さん(母)